

と定めて、毎年記念行事を行ってきた。写真は、2005年10月3日に東京の有楽町朝日ホールで開催した「全国犯罪被害者支援フォーラム2005」の様子である。被害者、遺族、弁護士、学者、警察及び司法関係者、被害者支援関係者が意見を交えて連帯を確認する貴重な機会となった。

春期研修会について

2006年2月18日、和歌山市において、全国被害者支援ネットワークの春期研修会が開催された。「新たな時代を迎えての被害者支援の展開」を統一テーマに、全国から40団体（当時）のメンバーが参集した。全国被害者支援ネットワークは、全国研修会を毎年秋・春の2回、秋期は東京で、春期は地方で開催しているが、会員相互の情報交換と学習、及び交流の場として貴重な機会となっている。



「犯罪被害者等基本法制定記念全国大会2005」について

2005年11月27日(日)、東京丸ビルホールにおいて、「犯罪被害者等基本法制定記念全国大会」が開催された。2004年12月に制定された同法は、全国被害者支援ネットワークが組織設立以来その制定を願い、各方面に働きかけてきたものである。記念全国大会は、全国被害者支援ネットワークと犯罪被害者自助グループネットワークとの共催で開催され、前日には銀座で街頭行進を行った。



キャンペーン事業について

全国被害者支援ネットワーク加盟団体は、全国一斉に広報・啓発活動のキャンペーン事業を行ってきている。

2. いばらき支援センター

犯罪被害者支援の日キャンペーンの一環として「大好きいばらき県民まつり」に参加

社団法人 いばらき被害者支援センター

平成17年11月12日(土)・13日(日)、茨城県主催の「大好きいばらき県民まつり」が、“つくばエクスプレス”「みらい平」駅前広場で開催された。

いばらき被害者支援センターは、「犯罪被害者支援の日」のキャンペーンの一環として、「安全安心いきいきフェスティバル」のコーナーに出展。犯罪の被害に遭ったときに起こる精神的な問題、身体的な問題、経済的な問題などについて、また望ましい周囲の対応につい

てなどのパネル展示を行った。多くの方がブースを訪れ、被害者支援について関心を寄せてくださった。

会場内の特設舞台では、当センター初めての試みとして、支援員がにわか女優となり、寸劇を行った。被害に遭った方にどのように接し、どのような言葉をかけたらよいのかを寸劇と解説によりPRした。当センターの支援員の熱のこもった演技を多くの方がうなずきながら見てくださり、大いに好評を得た。早速、翌日の新聞に掲載された。



3. 熊本支援センター

「心の声が聞こえますか」 ～いのちのうた・ヤングサミットの開催～

社団法人 熊本犯罪被害者支援センター

熊本犯罪被害者支援センターでは、犯罪被害者に対するいたわりの心を育むとともに、犯罪のない地域社会の実現を目指し、「犯罪被害者支援の日」記念事業として、一行詩「いのちのうた」コンテスト及び中・高校生によるパネルディスカッション「ヤングサミット」を開催している。

メインテーマを「心の声が聞こえますか」～未来へつなぐ ひとつのいのち～とし、特に、若い世代へ「命の尊さ」を考えるきっかけとなるように、また教育関係者や保護者、ひいては地域社会における被害者支援意識の高まりを期待し、毎年実施している。

昨年度一行詩「いのちのうた」には、4,741編の応募があり、学校を挙げての取組も見られた。「ヤングサミット」では、熊本県内の中・高校生37人と県警本部長や熊本市長、県教育委員がコメンテーターとして参加し、少年犯罪や自殺サイトをキーワードに「命」や「生きる意味」についてフリートーク形式で討論し、それぞれの体験を基に率直な思いを語り合った。



提供：NPO 法人全国被害者支援ネットワーク

Column